

# 浜松市立船越小学校 活動報告

## 1 外国語活動で目指す子供の姿

「その子がもつ多様な能力(MI)を輝かせ、夢中になって活動する子供」

※「MI」とはHoward Gardnerが唱えた多重知能理論(Multiple Intelligences)のことを指す。

## 2 授業を進める上で力を入れる点

- (1) 日常の話し言葉として自然に使われている英語表現に慣れ親しむために、チャンツや歌などを活動に取り入れる。
- (2) 外国語(英語)を聞いて、それを動作で表現することもコミュニケーション能力の素地の一つと考え、活動に取り入れる。
- (3) 児童が安心して自ら発話することができるよう、「教師⇔学級全体」、「大集団単位⇔大集団単位」→「小集団内」→「個人⇔個人」というように段階を踏まえて交流の活動を取り入れる。
- (4) 外国の文化や習慣、子供の興味や学校行事との関連で単元を計画し、語彙や表現を広げていく。
- (5) 実物に近い教具を用いたり、多様なゲームや活動を取り入れたりするなどして、どの子にも印象に残る活動を展開する。
- (6) 行動を伴った教室英語を用いて、子供が理解している英語で教師が指示できることを増やす。

## 3 活動内容

- (1) 活動名「英語のお話を聞いてみたいな」(3年生)

※読み聞かせの時間を活用して行った。

- (2) 扱った教材

- 大型絵本「Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?」Bill Martin 作 Eric Carle 絵
- 大型絵本「Yes, please.」阿部フォード 恵子監修
- CD「New Let's Sing Together」より「colors」

- (3) 大型絵本「Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?」を扱った活動の流れ

時間	活動内容	教師のかかわりや支援するときの留意点	「2」との関連
warm up 5	1 歌( colors)	1 歌(colors)を子供たちと一緒に聞く。	(1)
25	2 歌を聞いて、聞こえた音を言う。	2 聞いたことのない英語の音でも、前向きに聞こうという気持ちにさせることが目的なので、子供たちが単語の一部を発話したり、日本語の中から近い音を見つけて言おうとしたりすることも受け入れる。 子供たちの発達段階や英語に触れてきた経験を考慮して、注目させたい語を中心にCDの歌は短く切りながら聞かせる。	(1)

3 「Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?」の絵本の1ページ目に出てくる色を見ながら、言えそうな色の英語を言ってみる。	3 絵本の1ページ目の色を指示して、子供たちと共に英語で発話する。	(4) (5)
4 教師が話す英語を聞いたり、繰り返し出てくる表現は一緒に言ったりする。	4 次に出てくる色や動物を子供たちと予想しながら読んでいく。 ‘What Do You See?’の部分は繰り返し出てくる表現なので、子供たちと共に言う。	(5)
5 どんなことを思ったか、感想を話し合う。	5 どんなことを思ったか質問する。	(4)

#### 4 成果と課題

##### ○英語表現への慣れ親しみ

「colors」の歌を流したところ、知っている色の英語表現が出てきたので、色の英語表現が出てくる絵本の読み聞かせを聞こうとする流れが自然にできたと思う。

読み聞かせが終わった後で、教師のところに来て、「colors」と同じ曲の「Head, Shoulders, Knees and Toes」の歌を、動作をつけながら歌った子供がいた。歌を扱ったのは数分で、子供たち自身が歌を歌ったわけではないが、子供たちにとって記憶に残る活動であると改めて感じた。

##### ○表現の広がり

大型絵本「Yes, please.」では、食事の際に使用する‘Rice?’と‘Yes, please.’という表現を扱った。英語を母語とする国では、‘please’は、magic wordと言われていて、子供たちは何かを頼む際、‘please’を付けるようにしつけられている。3年生の子供たちが将来的に英語でコミュニケーションを取る際、重要ですぐに使用できる英語表現であると考え、この教材を選んだ。

実際に読み聞かせをしてみると、短い表現で、絵本の中でも繰り返し出てくるので、すぐに子供たちは言うことができた。そして、その日に給食で、おかわりが欲しいかどうか子供たちに尋ねる際、‘Rice?’と聞いたところ、‘Yes, please.’と子供たちから返事が返ってきた。最近では、こちらかた問い掛けなくても、‘Yes, please.’の返事が返ってくるようになった。

さらに、生活の中のほかの場面でも、何かを担当に頼みたいときには、‘Yes, please.’と話しかけてくる子もいて、使う場面を子供たちが分かっていると感じている。子供たちの日常生活の中ですぐに使える英語表現は繰り返し発話することができるので、子供たちの記憶に残りやすいと思った。

「Yes, please.」を読み終わった翌日に、自分では読めないから読んでほしいと、家から英語の絵本を持ってきた子がいた。読み聞かせは、間をおいて3回行っただけだが、英語に興味をもち、もっと知りたいと感じた子がいて、嬉しく思った。子供たちの関心や実態に合わせた英語表現を選んで、今後も少しずつ継続していきたい。